総務文教常任委員会審査概要報告書

委員長 高岡 宏和

- I 開催年月日 令和 4 年 11 月 16 日（水）
- II 会議時間 午後 1 時 00 分～午後 1 時 25 分
- III 出席委員等 [出席委員] ◎高岡 宏和 ○山口 泰祐 田中 勝文
出町 讓 中村 清志 中川加津代
坂林 永喜 上田 武 曾田 康司
(◎…委員長 ○…副委員長)
- [議長] ※坂林 永喜議長は委員として出席
- [副議長] 本田 利麻副議長は産業建設常任委員会に出席
- [説明員] 別紙名簿のとおり（杉森教育次長は病気療養のため欠席）
- [委員外議員] 新開 広恵
- [事務局職員] 西本 幸夫 堀田 寛之
- [傍聴者] なし

IV 審査の概要

1 報告事項について

〈 当局から、次の報告・説明があった。 〉

[総務部]

- 令和 5・6 年度高岡市建設工事等入札参加資格申請について

〈 委員から次の質疑があった。 〉

（以下、質疑・質問内容は ○、答弁内容は △ で表示）

【令和 5・6 年度高岡市建設工事等入札参加資格申請について】

- 見直しする理由は。
- △ 今回の改正は、従来の算定期間である 2 年間の間に、本市が発注する工事を受注できなかった業者への配慮を行うものである。本来、業者のランク付けを行うにあたり、業者の施工能力の観点から、客観的点数と言われる経営事項審査の点数がある。この点数でランク付けを行うことを前提としており、大きな主観点数の加算の

有無により、極端なランク変動がないように配慮したものである。

- 算定期間を土木工事が4か年、建築・電気・管工事が6か年に拡大することだが、拡充期間の根拠は。
- △ 今回の拡充期間については、県を参考にした。
- 県を参考にしたとのことだが、土木工事と建築・電気・管工事に違いを設けた理由は。
- △ 従来算定期間である2年間の場合、土木工事では約70%の業者が工事成績の加点がされる。一方、建築工事では約37%、電気工事では約50%、管工事では約46%の業者しか工事成績の加点がされない状況であった。このことから、工事点数による業者のランク付けに大きな変動がないように、算定期間をそれぞれ4年、6年にすることで、土木工事については約85%、建築工事については約66%、電気工事については約67%、管工事については約70%となる見込みであることから、多くの業者にメリットがあるのではないかと考えている。
- 算定期間を延ばすことによって、入札参加企業が増加すると考えているのか。
- △ 今回、主観点数の拡大をすることによって、入札参加する業者や機会が増えるというのではなく、あくまでも業者のランク付けをするための算定であるので、直接的な影響はないと考えている。
- 見直しにより、業者の受注機会がどのように担保されるのか。
- △ 今回の見直しと、業者が受注する機会の増加は、直接リンクするものではないと考えている。ただし、受注機会の拡大の取り組みについては、工事の発注を行う関係部局に情報提供していきたい。
- 発注件数の減少が見直しの理由と考えるが、見解は。
- △ 本市だけではなく、県を含めた近隣自治体においても、発注件数は減少傾向にある。それを踏まえての見直しとも言える。

2 その他

〈 委員から次の質疑があった。 〉

【小・中学校のコロナ対策について】

- 登下校時と体育授業時にマスクをはずす指導を徹底すべきと考えるが、見解は。
- △ マスクの着用については、令和4年5月の文部科学省の通知や、10月に厚生労働省が作成した「マスク着用に関するリーフレット」の内容を踏まえて、十分な身体的距離が確保できる場合には、マスクの着用の必要がないことや、体育の授業や運動部活動中、登下校の際には、感染対策の工夫や配慮を行いながらマスクを外すなど、活動場所や活動場面に応じたメリハリのあるマスクの着用について、校長会等を通じて指導している。一方で、様々な理由から、マスクの着用を希望する児童生徒や、マスクの着用ができない児童生徒については、事情を十分に配慮し、対応している。
- 校長会を通じて指導しているとのことだが、校長会の開催頻度は。また、校長か

ら教職員へもきちんと指示が伝わっているのか。

△ 校長会については、教育委員会主催の校長会が、学期に2回のペースで開催されている。また、小学校長会及び中学校長会主催のものが毎月開催されている。各学校においては、それらの校長会の内容を、朝礼や終礼、職員会議を通じて、教職員に周知徹底するよう努めている。また、学校訪問研修で、各学校を訪問した際に、子供たちのマスクの着用の状況についても把握している。

○ 偏見によるいじめや差別が起きないような取り組みは。

△ 各校において、マスクの着用の有無も含め、新型コロナウイルス感染症に係る差別や偏見が生じることがないように、保健指導や学級指導、道徳科の授業、児童会や生徒会を中心とした様々な取り組みを通して、指導を行っている。具体的には、小学校では、互いのよさや感謝の気持ちを伝え合う活動や、人権標語づくりなどを行っている。中学校では、感染者や医療従事者への差別や偏見をなくそうという取り組みから始まったシトラスリボンプロジェクトを生徒会活動として取り組んでいる。また、各校においては、生活アンケートや面接等を通じて、コロナによる偏見やいじめ、差別がないか、早期発見に努めている。今後も新型コロナウイルスに起因する差別やいじめ、偏見が生じることないよう対応していきたい。

〈 当局から、次のとおり報告・説明があった。 〉

[未来政策部]

・ たかおかSDGs DAYsの開催について

〈 委員から、次の質疑があった。 〉

【SDGsの推進に関する取り組みについて】

○ 出前講座の開催件数は。

△ 令和4年度については、月に1、2回程度出前講座に出向いており、現時点で13件となっている。職員は、民間のSDGsの資格を取得し、カードゲームを活用するなど、様々な形で市民の方に参加していただくよう取り組みを進めている。

○ たかおかSDGs DAYsでは、SDGsサポーターはどのような取り組みを行うのか。

△ 高岡商工会議所と東京海上日動火災保険株式会社が協力し、SDGs経営セミナーを企画している。また、富山銀行では、これまで続けてきたビジネスプランコンテストをSDGs AWARD2022とし、SDGsの視点を持って地域課題の解決に取り組んでいる。このように、SDGsサポーターやSDGsパートナーが一緒になって、また、それぞれが課題を解決する取り組みを進めている。

〈 以上で委員会を閉じた。 〉